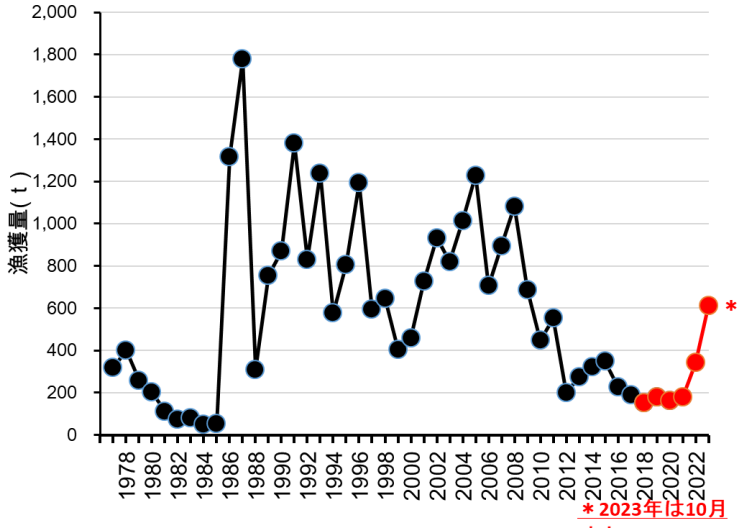
マアジ

令和5年12月

資源の動向 「中位・増加」



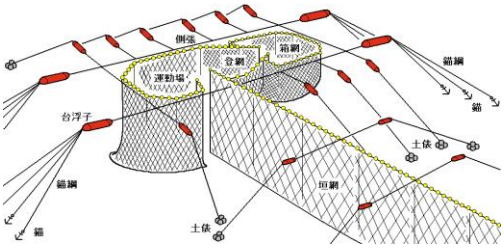
マアジ漁獲量の経年変化
（西湘　定置網：1977～2023）

相模湾西湘地域のマアジ漁獲量は、2016～2021年は年間200トン前後で推移していたが、2022、2023年と増加し、回復傾向にある。マアジ太平洋系群の資源量は低位であるため、東シナ海からの回遊によるマアジ漁獲量は引き続き低調と見込まれるが、相模湾における直近5年の動向は「中位・増加」である。

対象漁業

〇定置網

定置網の構造と各部の名称



生物学的特性

〇分布：日本の沿岸全域

〇移動：東シナ海で孵化し、本州沿岸域を北上し、産卵期には東シナ海近辺の大陸棚まで南下する。そして、産卵後は再び北上回遊するとされている。一方、地付きのマアジは、地先付近で再生産をしており、長距離の回遊は行わないとされている。

〇成長・産卵：相模湾で漁獲されるマアジは1年で尾叉長18cm前後、2年で21cm前後に成長し、雄は1歳、雌は2歳で産卵に加入するとされる。主産卵期について、東シナ海では2～4月であるが、相模湾近海では、最も生殖腺が発達する5～6月であると考えられている。